

人びとが創るもうひとつのアジア

ハリーナ

HALINA

no.55 2025年8月

(特集)

国際協力の軍事化に
歯止めを

国際協力の 軍事化に 歯止めを

トランプ政権による米国国際開発局(USAID)の廃止が発表され、対外援助に関する議論がにわかに熱を帯びています。日本はといえば、国会議論もなく、有権者にもほとんど知らされないなかで、国際協力の政策が大きく転換しつつあります。その中心にあるのが政府安全保障能力強化支援(OSA)。本特集では、OSAの全体像についてお伝えすると同時に、APLAの活動地であるフィリピンとインドネシアへの「軍事援助」が何をもたらすのか、現地の状況についてもお届けします。(編集部)



「安保三文書」に明記された
「同志国」支援

その流れを受けて、2022年12月の「安保三文書」では、「同志国」の安全保障上の能力・抑止力の向上を目的的に、ODAとは別の枠組みで、途上国や防衛装備品（武器）や軍事インフラへの無償援助を行うことが明

アシアを
戦争に巻き込むOSA

今井高樹／いまい・たかき
前NGO非戦ネット運営部委員

きなれないけど、O
SAっていいたい
何？— そう感じる方
援助する仕組み
は、これまでの
転換し、途上国

きなれないけど、〇
聞 S A つていったい
何?」 そう感じる方
が少くないかもしません。

は、これまでの日本の政策を大転換し、途上国に武器を無償で援助する仕組みです。石破首相の2025年1月のマレーシア訪問、4月のベト

おいて、首脳会談で主な議題になつたのがOSAでした。私たちが気づかぬうちに、OSAは日本の外交・防衛の主要政策として推進されています。

日本は戦後一貫して「平和国家」の理念を掲げ、「自衛隊の海外派遣など多くの逸脱はあつたものの」非軍事的な手段での国際協力をを行ってきました。1970年代には「武器輸出三原則」によつて武器輸出が禁止され、O

（その後「開発協力大綱」に改称）が定められ、紛争助長につながる援助を行わない「非軍事原則」が明記されます。

しかし2014年の武器輸出解禁、2015年の安保法制のあたりから、こうした国の方針は大きく変化します。

ODAについては2015年の「開発協力大綱」改定で「非軍事原則」の考え方方が後退し、

軍に対する援助が解禁されまし
た。しかし、政府にとつてODA
の部分的な変更では不十分だつ
たようです。この時期、日本は
インド太平洋地域で積極的に防
衛協力を進め、自衛隊の艦船寄
港や軍事演習への参加、相手国
への能力構築支援といった海外
活動が増加します。それに伴い
寄港する相手国の軍港を整備
したい、能力構築支援（自衛隊

台湾での生活から感じたこと

井上馨真講子／よしがわ・まみこ

RELAY ESSAY



ぼこぽこ
poco
poco
poco
poco

吉澤真満子／よしざわ・まみこ
(株)オルタ・トレード・ジャパン広報室

2

024年、家族の都合により、台湾で一年間生活しました。

台湾生活での数ある発見からいきつたご紹介したいと思います。

まず、自分でも意外だったのが、フイリピンとの類似性をよく感じたことでした。雨が上がった後の空気や匂い、下町の雰囲気、山に霧がかかる風景など、北部ルソンのバルангゴンバード、三毛地で訪ねて詩の情景

A photograph of a woman with short brown hair and glasses, wearing a blue t-shirt, sitting in front of a window. To her right is a vertical column of Japanese text.

台湾は2019年5月に同性の恋愛を実感した発見でした。婚が合法化され、街中でも同性カップルが普通に過ごしています。語学学校のある日の授業でのこと。「彼女、彼氏」の単語を学んだ際、会話の練習として先生がベトナム人の男子学生に「彼女はいますか?」と質問。答えが「いない」だったのに次に「彼氏はいますか?」と聞かれた彼は一瞬驚いて「いない!」と返事。同性の恋愛

2024年10月には中国が台湾海峡周辺で大規模な軍事演習を行いました。日常的に地元テレビや新聞からはあまり情報をとつていなかつたので、日本から大丈夫かと心配する連絡をもらつて初めてそのニュースを知りました。その日一日、そのことを気にして過ごしていましたが、街の中はいつも通りで緊迫した空気もなく、その話題を耳にしませんでした。後日、近所の日本人の友人とこのことを話した際に、彼女も日本から心配の連絡をしました。日常生活で地元の情報はほとんど感じませんでした。

実際に毎年防空演習があるなど
有事に備えていますが、市民が
割と冷静に状況を見ていること
お互いにビジネスが活発である
こと、台湾の多くの人が元々は
大陸からの移住者で、家族が中
国にいる人もいるなど、市民の
目線での中台の関係も垣間見ま
した。

今はネットで何でも情報を取
れる時代ですが、やはり実体験
を伴って、自分なりに世界を見
る目を養うことの大切さやおも
しろさを再確認する台湾滞在と
なりました。 ■

Contents

02 【ぼこぼこ 55】
台湾での生活から感じたこと◎吉澤真満子

03 【特集】
国際協力の軍事化に歯止めを
アジアを戦争に巻き込むOSA◎今井高樹
Philippines
大国の捨て駒にはならない! ◎大橋成子
Indonesia
日本が積極的に支援する
海洋安全保障◎佐伯奈津子

09 【COLUMN】
[西ティモール見聞録⑥]
三兄弟はどこから来た?◎松村多悠子
[APLAの本棚⑥]
小川 忠著
『変容するインドネシア』他

10 【Topics】
01- 台湾・深溝村訪問記
—「半農」生活を可能にする村◎安藤丈将
02- 芝園団地に住んで◎小川二美子

12 【P to P“最前線”】
史上最高値を記録したコーヒー価格
—2024年コーヒー生産の背景◎荻沼民

14 【Voice from APLA partners】
From Papua, Indonesia
インドネシア・パプア州
カカオ産地の村へ
—筑波大学国際総合学類、海外研修を振り返る

15 事務局だより

16 【握っておきアジア】
ベトナム・ホーチミン◎吉澤真満子

表紙のこどり

インドネシア、東ヌサ・トゥンガラ州は多くの島々から成り、豊かな織物文化で知られています。島ごとはもとより、同じ島の地域ごとでも違いがあり、多彩なモチーフや色使い、技法がみられます。織物は儀礼に欠かせないことはもちろんですが、「織物は預金だ」という表現を耳にしたことが何度もあります。緊急時に家庭を支えるものもあるのです。この布は世界中が直面したコロナ禍の最中に購入したものです。皆が家に籠るしかなかった頃、布好きの友人から「スンバ島の布を買わないか?」とメッセージが入りました。現金収入が減り困難にある織り手たちの織物を集めて販路を探している島の友人がいるということでした。自然染色、現地でパヒクンとよばれる浮織りの技法を用いた手織りの作品で、ユニークな人の模様は王様だということです。(松村多悠子)

ア、マレーシア、ベトナムなど
16カ国に及ぶオブザーバー国も
参加し、その数は過去最大の1
万7000人強となつた。

喧嘩は自分たちの国で やつてくれ!

約1カ月間にわたる、海を舞台にした「水中実射撃」演習で最大の被害を受けたのは、生活の場を奪われた漁民たちだ。スラバタリー諸島から目と鼻の先に位置するパラワン島、そして台湾南部に最も近いルソン島北部沿岸までの漁場が閉鎖された。

パラワン島の漁民組織の代表



米比主催多国間共同訓練「バリカタン25」に参加する護衛艦やはぎ(防衛省統合幕僚監部Facebookより)

は、こう訴える。「スプラトリーの海域では、周辺国との緩やかな外交によって、先祖の時代から漁民の生活は守られてきた。それが、この地域とは全く関係ない米国が突然対立を煽り、中国も負けじと対抗して人工島の滑走路建設が本格化した。大国が勝手に始めた喧嘩の現場が、理不尽にも私たちの生活の場になってしまった……。これじゃ、太平洋戦争の時と同じじゃないか! 喧嘩したいなら自分たちの国でやつてくれ! もう大国の捨て駒にはなりたくない!」

この海域の漁民たちは、フィリピン語、インドネシア語、マレー語を自由に操る越境する海の民だ。台湾に最も近いバタン諸島を訪れた時も、「ここには、台湾の漁民たちとの独自の漁のルールがある」と漁民が教えてくれた。海の民たちは、国境や海域に縛られず、共通の資源を、何世代にもわたって分かち合ってきたと言う。「有事」とは程遠い、



は、こう訴える。「スプラトリーの海域では、周辺国との緩やかな外交によって、先祖の時代から漁民の生活は守られてきた。それが、この地域とは全く関係ない米国が突然対立を煽り、中国も負けじと対抗して人工島の滑走路建設が本格化した。大国が勝手に始めた喧嘩の現場が、理不尽にも私たちの生活の場になってしまった……。これじゃ、太平洋戦争の時と同じじゃないか! 喧嘩したいなら自分たちの国でやつてくれ! もう大国の捨て駒にはなりたくない!」

この海域の漁民たちは、フィリピン語、インドネシア語、マレー語を自由に操る越境する海の民だ。台湾に最も近いバタン諸島を訪れた時も、「ここには、台湾の漁民たちとの独自の漁のルールがある」と漁民が教えてくれた。海の民たちは、国境や海域に縛られず、共通の資源を、何世代にもわたって分かち合ってきたと言う。「有事」とは程遠い、

静かな平和を築いてきた人たちの言葉だった。

全国労働者団体は声明で「巨額な軍事予算を、植民地時代の侵略者の兵士を受け入れるために使うではなく、貧困や物価上昇に対処するために使うべき」と訴えているが、「協力資金」という名の借款で対外債務は年々膨れ上がっている。JETROアジア動向年報(2025年6月)によると、2024年度の累積債務残高は前年から9・8%増加し、2846億ド

ル(約41兆5000億円)と、同年度の国家予算の15兆円を大きく上回る事態となつた。

政財界の伝統的な汚職構造を温存したまま、巨額なマネーが流れ込み、日銭で必死に生きる民衆の肩にはずつしりと国の借金がのしかかる……。しかし、忘れてはいけないのは、この「援助」を支えているのは私たちの税金だということ。今、フィリピンで起こっている事態は、決して「対岸の火事」ではない。

日本が積極的に支援する海洋安全保障

Indonesia インドネシア

佐伯奈津子／さえき・なつこ

名古屋学院大学教員

024年10月20日、
プラボウオ・スピアントがインドネシア第8代大統領に就任しました。プラボウオは、30年以上にわたって独裁政権を維持したスハルト大統領(当時)の次女と結婚(の

ちに離婚)、インドネシア国軍を掌握した人物です。1997年アジア通貨危機後の混乱のなかで、プラボウオ率いる陸軍特殊部隊は、民主活動家を誘拐しただけなく(13人はいまも行方不明)、スハルト政権崩壊直前の

ジヤカルタ暴動を扇動した疑いももたれています。1998年スハルト退任後は軍籍を剥奪され、ヨルダンに亡命しましたが、2000年代初頭には帰国、政界に復帰します。

2008年にグリンドラ党を結成したプラボウオは、2009年の大統領選挙に副大統領候補者、2014年、2019年には大統領候補者として立候補。

2024年の大統領選挙で「三度目の正直」とばかりに当選しました。大統領に就任したプラ

ボウオは、大統領の権限を強化

するため、さまざまな法改正

を進めています。そのひとつが、現役軍人を登用できる省庁を拡大する国軍法改正です。インドネシアの市民・学生団体は、民衆の肩にはずつしりと国の借金がのしかかる……。しかし、忘れてはいけないのは、この「援助」を支えているのは私たちの税金だということ。今、フィリピンで起こっている事態は、決して「対岸の火事」ではない。

日本が巨額の資金を投下する開発の目玉は「クリーンエネルギー」と「重要鉱物」。前述した日米比首脳会議の翌月、米商開かれたインド太平洋(FOI P)のための共同ビジョンステートメントが出され、軍事協

V)のエンジンに必要なニッケルを意味している。世界第二位のニッケル生産量をもつフィリピンの鉱山は、パラワン島やミンダナオ島の先住民族が住む地域に集中しており、住友金属鉱山など日本企業が露天掘りで山を切り崩し、六価クロムなどの公害病が多発している。脱炭素やSDGsが謳われる下で、やはりきれいな皮肉な現実が進行している(ニッケル鉱山開発についてFoE Japanの報告をぜひ参考にしてほしい)。

膨れ上がる債務
恩恵はどうへ?

全国労働者団体は声明で「巨額な軍事予算を、植民地時代の侵略者の兵士を受け入れるために使うではなく、貧困や物価上昇に対処するために使うべき」と訴えているが、「協力資金」という名の借款で対外債務は年々膨れ上がっている。JETROアジア動向年報(2025年6月)によると、2024年度の累積債務残高は前年から9・8%増加し、2846億ド

ル(約41兆5000億円)と、同年度の国家予算の15兆円を大きく上回る事態となつた。

政財界の伝統的な汚職構造を温存したまま、巨額なマネーが流れ込み、日銭で必死に生きる民衆の肩にはずつしりと国の借金がのしかかる……。しかし、忘れてはいけないのは、この「援助」を支えているのは私たちの税金だということ。今、フィリピンで起こっている事態は、決して「対岸の火事」ではない。

西ティモール見聞録

06

松村多悠子 / まつむら・たゆこ
西ティモール生活者



霧と風が出ては止み、この国のネット回線が入り乱れる渓谷の谷。

中に今も生きていることを感じる。しかし、このつながりはなぜだろうとずっと気になつてゐる。約350年前頃から海を越えてイモール島に到着したオーストラネシア語族の人びとなら三兄弟の言い伝えも当時の話につながるが、フナツク語だけがバブア系言語に属する。ティモール島には約4万2000年前には人類がいたと考えられているが彼らがバブア系言語を話す人びとの元だという。

三兄弟はどこから来た？

ティモール島の地図を見てほしい。へやつて来た」と現地の友人は言う。島の中央に引かれた国境線の一部がパズルのように西側から凸を東側に90度回転させたようになっている。この凸部分に私が大好きな場所、フラン・フェハンがある。

テトゥン祖語で「月の平原」という意味のこの場所だが、この辺りの国境線の両側はブナック人の地だ。幻想的な名前だが、かつては合戦場でテトゥン祖語を話すテトゥン人と現在の東ティモール側から来たブナック人が戦い、ブナック人が勝ち取ったという。メルス人という今は「消えた先住の民」とよばれる人びとともに戦つたというが、彼らについては謎が多い。フラン・フェハンから国境の向こうにサヴ・ライとい

テトゥン語で「サヴの大地」という意味だが、ティモール島の西に位置するサヴ島の言葉でも同じ意味を持つ。海で隔てられた違う島だが、ブナック人とサヴ人は兄弟であるから争ってはならないという古い言い伝えがある。「ベル・マウ、サヴ・マウ、ティ・マウ」という三人の兄弟が海の向こうからティモール島へやってきて、ベル・マウはベルの地に留まり他二人は旅を続けそれぞれサヴ島、口テ島に留まることにした。現在のベル地域にはいくつかの民族が暮らすが、「ベル・マウ」はブナック人のことである。私のパートナーはサヴ人なので、ブナック人からはこの話を引き合いに「兄弟だから！」と、とつ



母親の声運動による国軍法改正反対デモ(2025年3月28日) ©JawaPos.com

日本とインドネシアは2022年12月、政府開発援助(ODA)の枠組みで、Bakamlaに対する総額90億5300万円を限度とする無償資金協力「海上保安能力向上計画」に関する書簡を交換しています。日本が建造する大型巡視船1隻が供与され

(KPLP)もあり、供与先を選定したり、ODAとOSAを区別したりする明確な基準があるようみえません。

明にしたスハルトの退陣後、米国と強大化する中国のあいだでいずれか一方に深く依存する外交を避け、ASEANの中心性を軸としたミドルパワーとしての多角的外交をめざしてきました。

□ APLAの本棚

『ハリーナ』編集委員が読者の皆さんにお薦めする一冊です。

の関わりを起点に、国際的な植民地主義の負の遺産を検証する。本書には、自分たち自身の課題としてパレスチナ／イスラエル問題に向き合い考えるための道筋が提示されている。ガザの現在は、日本に暮らす私たちと切り離された「遠い世界の出来事」などでは決してないこ

カトリーン・キラス＝マルサル著、高橋璃子訳『アダム・スミスの夕食を作ったのは誰か?—これから経済と女性の話』(河出書房新社)

インドネシアが日本を抜くのは時間の問題か? 台頭するインドネシアの実力を知らないのは日本人だけだ。

20年以上この国を見続けている著者が最新の情報と自らの観察をもとに、インドネシアの全体像をリアルに描いた大著。変容するインドネシア理解のカギとなるのは「イスラーム」と「デジタル化」です。

首都ジャカルタやジャワ島だけでではなく、キリスト教徒が多数派の州などの地方も取り上げ、十把一絡げで見守る二冊。【ふた多き】

1999年、独立を問う住民投票後のインドネシア軍大量虐殺事件を経、2002年に独立した新生国家・東ティモールの共同研究!

主権回復後の東ティモールにおけるフィールドワークの成果が記された渾身の一冊。東ティモール独自のナンヨナリズムや暮らしに根ざした精霊崇拜やカトリックの実態など、実際に興味をそそられる。【箕曲在弘】

小川忠著『変容するインドネシア』(ぬ

とを再確認する。【野川未央】

インドネシアは、1955年に第1回アジア・アフリカ会議が開かれた国です。どの陣営にも与さず、植民地主義に反対し、社会的・経済的格差や不公正を取り組む非同盟運動に根ざした外交理念を伝統的にもつています。西側陣営に加わることを鮮

一ドに対する反発や不信感は非常に強いものとなっています。

OSAの目的は、「同志国との安全保障上の協力を深化させること」ですが、インドネシアの非同盟主義において、「同志国」という考えが、日本政府の期待するようなかたちで受け入れられるとも思えないのです。

で新しいスキームとして登場したのがOSAです。ODA政策については、開発適正会議やODA政策協議会など、市民社会がモニタリングする場があります。しかし、OSAについては、その実施方針で「防衛装備移転三原則及び同運用指針の枠内で実施」「適正性・透明性の確保」と定められているものの、実際に誰がどのように評価・モニタリングするのかは明らかではありません。

と領土保全の尊重を重要視する「姿勢をみせつつ、ロシアへの制裁には参加していません。ロシアからの防衛装備品が十数%を占めていることも、その背景にはあるでしょう。パレスチナ問題では、一貫してパレスチナの完全独立、主権獲得を支持する立場をとつてきました。ウクライナ問題においては、ロシアに対する制裁、ウクライナへの支援をおこない、そのいっぽうでパレスチナについては、占領するイスラエルを支持しつづけ

(KPLP)もあり、供与先を選定したり、ODAとOSAを区別したりする明確な基準があるようみえません。

2023年の開発協力大綱改定の際、日本の多くの市民団体は、ODAにおける非軍事原則を軸としたミドルパワーとしての多角的外交をめざしてきました。

明にしたスハルトの退陣後、米国と強大化する中国のあいだで、いずれか一方に深く依存する外交を避け、ASEANの中心性を軸としたミドルパワーとしての多角的外交をめざしてきました。

台湾・深溝村訪問記

—「半農」生活を可能にする村

安藤丈将／あんどうたけまさ
武藏大学教員



台湾
Taiwan

湾といえば、日本ではタピオ

カミルクティや小籠包などの

食べ物で有名ですが、実のと

ころ市民運動の活発なところでもあります。

2025年5月に「原発ゼロ」を実現したことから、反・脱原発の活動を

存じの方もいるかもしれません。そんな

台湾で食と農の地域活動も盛んであるこ

とは、日本でもそれほど知られていませ

ん。台北駅からバスで1時間半ほどの場所にある台湾北東部の宜蘭県の深溝村は、

これらの活動の中心地の一つです。50

0世帯ほどからなる小さな村には都市部

からの移住者が絶えず、彼らが農やそれ

に関連する活動に従事して、村の獨特な文化を形成しています。

半農半X 村で自由を求めて

賴青松が立ち上げた「穀東俱楽部」は、

台湾で最初のCSA（コミュニティ支援型農業）の農場といわれています。彼は日本留学の経験があり、日本の生協運動から「予約購入、計画生産、リスク分担」という考え方を学び、農家と消費者とが

直接つながる仕組みをつくり出しました。賴や仲間たちは研修生を受け入れており、村には穀東俱楽部以外にもCSA農場が多数存在します。「土拉客実驗農家園」は、LGBT運動の参加者による共同農場であり、農村のジエンダー不平等の問題を取り組む農場です。「深溝共同店」は村の農家が生産した農産物や加工品を提供しています。「小間書菜」という書店に古本を持参すると、野菜と交換できます。深溝小学校では地域住民の支援のもとで生徒や教員が米をつくっており、学校の「食農小学堂」は子どもたちの食育・自然教育の場になっています。

「慢島生活公司」は村民や移住者が集まって新たな活動を立ち上げる、社会的企業の実験室のような場所です。慢島生

活公司のメンバーがしばしば団にする言葉の一つは、「半農半X」です。それは、農を営みながら自分のやりたい事業や趣味を行うライフスタイルを指し、日本の塩見直紀の造語が翻訳されて台湾でも広まっています。移住者たちは食べ物や仕事を自らつくり出したり、村の社会関係

の中でおすそ分けを受けたりしています。生存のセーフティーネットが確保されているので、その自信をもとに、酒造りをしたり、物書きをしたり、自分の人生でしたいこと「X」を選び出します。その意味で、彼らは、「半農半X」という言葉に「農を通しての自由な生き方の実現」という意味を込めています。その生き方の実践を可能にする人と自然の資源の存在が、深溝村に漂う自由な雰囲気の背景を構成しています。

「米中対立」の先を見据えた市民的交流へ

一方で台湾の人びとは日本の社会(運動)から多くを学びながら、困難な状況を打開するヒントしています。他方、日本人のひとが台湾の社会問題や社会運動について知っていることは、それほど多くないかもしれません。テレビや書籍、ネット上の台湾報道は中国との関係を中心であり、台湾の社会運動についてももちろん、社会問題やその取り組みについて知る機会はほとんどないからです。戦争の脅威を憂慮する以外の領域にまで市民の間の交流と相互理解を広げ、深めることこそ、「米中対立」、「新冷戦」といった大文字の政治が幅をきかせる時代の先を見据え、準備する時に必要ではないか。深溝村の訪問は、私にそのようなことを感じさせました。



村の農家が生産した農産物や加工品を提供する深溝共同店。

芝園団地に住んで

小川二美子／おがわ・ふみこ
パート労働者

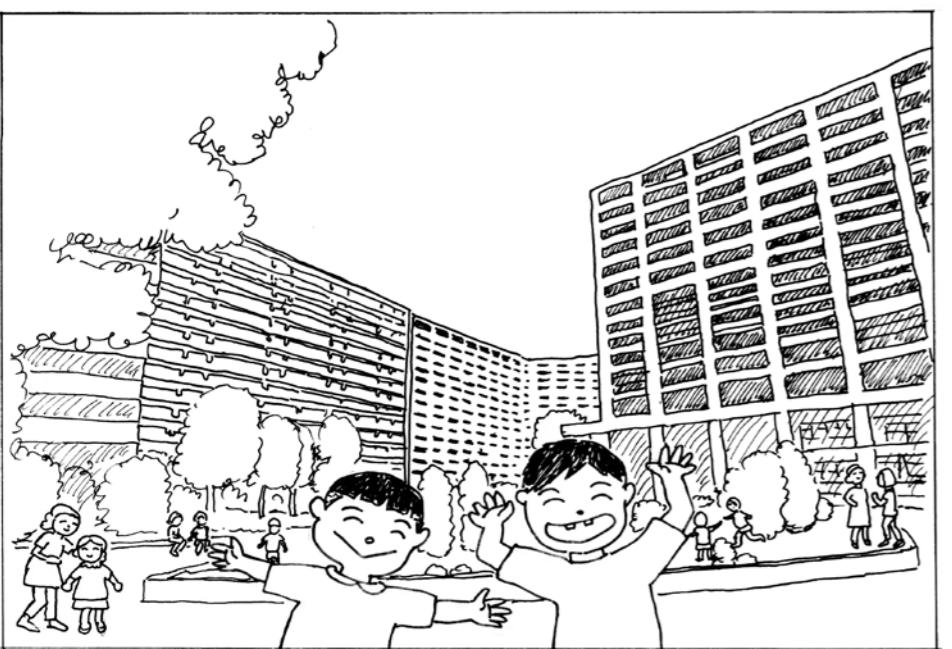
R川口市芝園団地は、埼玉県の南、東京に隣接した

川口市にあって、最寄り駅は京浜東北線の蕨駅になります。築50年

年のマンモス団地で広さは東京ドーム2個分以上あるそうです。2500世帯が暮らし、その60%は外国人です。そのほとんどは中国人でチャイナ団地とも言われています。20年前頃は日本人と中国人のトラブルで有名になつた団地でもあります。ゴミ出しや騒音などの問題で「荒れた団地」とネットで盛んに取り上げられていきました。

しかし今は、自治会の努力で落ち着いています。あらゆる貼り紙に日本語と中国語が書いてあるのもその一環なのでしょう。エレベーター脇には「夜中の騒音は響きます」や「不法投棄はダメ」という貼り紙が何枚も貼ってあります。文化が違うのですから言わないとわかりません。それでも挨拶してはいけない習慣があるらしく、道やエレベーターで会つても誰も挨拶をしません。それって実は楽です。

面白いのは、中国人は知らない人には挨拶してはいけない習慣があるらしく、道やエレベーターで会つても誰も挨拶をしません。それって実は楽です。



芝溝団地の中央にある広場。(イラスト:筆者)

無理しなくてもいいんじゃない?

私は40年前頃「アジアの女たちの会」に入り、フィリピン人と出会いました。その後、フィリピン女性と共に西川口地区で「フィリピンナースルームM&F」を立ち上げ、たくさんのフィリピン人をサポートしていました。『ハリーー』との出会いは35年前頃で、誌面のレイアウトを頼まれて数年続けていました。そのなかで「ネグロスからの出稼ぎ労働者」という原稿を依頼さ

多く、私を含め高齢者ばかりです。それに比べ中国人の人たちはIT産業で働き、若くてお金があるので、団地を足掛かりに戸建てやマンションを買っています。そのせいで隣近所の入れ替わりも激しく深い付き合いはありません。そういうところも気楽なところです。私は長い間フィリピンに住んでいたのでこんな風に外国人がいっぱいいる環境は居心地がいいんです。

川口市や蕨市には様々な国籍の人びとが住んでいて面白いです。今はクルド人のヘイトが問題になっていますが、私は頻繁にクルド料理を行っています。昔はフィリピン人へのヘイトもありました。ヘイトをする人たちは弱い立場の人たちをターゲットにするんですね。ですが、日本人とは対立もなければ交流もないという状況です。私はそれでいいんじゃないかなと思っています。無理に交流しなくとも相手を少し理解し、誰も不愉快にならないように暮らしていくべきなんじゃないでしょうか。ただ私自身は現在中国語を勉強しています。団地の中の食堂や八百屋で中国語を話せたらいいなと思っています。

日曜日になると、芝園団地のグラウンドでは右端で高齢の日本人たちがテニスをし、左側ではインド人たちがクリケットを楽しんでいます。私は7階のバルコンから遠く富士山を眺めています。

史上最高値を記録した コーヒー価格

荻沼 民／おぎぬま・たみ

(株)オルター・トレード・ジャパン 商品部

2024年コーヒー生産の背景

コ

コーヒー生豆の国際取引価格は、生産地から遠く離れたニューヨークの先物取引で決まります。2024年の春先、レギュラーコーヒーに使用されるアラビカ種の生産量が多いブラジルで、エルニーニョ現象に端を発した雨量不足から、収量が例年より少なくなる見込みであることが発表され、その後コーヒー相場は前年比の約2倍と大きく高騰しました。また、インスタントコーヒーや缶コーヒー等に使用されるロブスタ種を主に生産するベトナムでも、干ばつによる影響で収量が半分以下となり、世界的なロブスタ種の供給不足の懸念が広がったことも、アラビカ種の価格を押し上げることになりました。その結果、コーヒーの国際取引価格は、先物取引開始以降過去最高値を更新しました。

欧州森林破壊防止規則(EUDR)の影響

コーヒーの価格を押し上げた別の要因

の影響が出ています。2024年の収穫期、中米のグアテマラでは、例年12月から収穫が始まるところ、10月～11月にかけて長雨と曇天が続き、コーヒーの実の成熟が遅れ、収穫も2ヶ月程遅れました。また、アフリカのタンザニアでは、開花自体は早かつたものの、実が色づくまでに時間がかかり「奇妙な」年だったとの報告を受けています。コーヒー栽培の条件には、土壤などの条件もありますが、収穫のピークが遅れることが、乾季と雨季がはっきりとわかれ、一定の雨量と適度な日照時間が必要となります。近年、天候不順によりこの乾季と雨季のパターンが崩れ、各地で開花期や収穫期のずれが起きていています。アラビカコーヒーは、標高の高い山間部の地域で収穫されますが、そうした地域では、機械を使うことは困難なため、収穫はすべて手摘みでおこなわれます。収穫期は多くの人手が必要としますが、収穫のピークが遅れることで、季節労働者の確保が困難になる、収穫期間が長引くことで効率的に収穫ができなくなるなど、全体的なコスト増にもつながっているとのことでした。生産地では、コーヒーの取引価格が上がったとしても、こうした天候不順に対応するコストや手間が増えているため、そこまで大きく値上がりの恩恵を受けられないのが現状です。

日本人の靈が彷徨うお店?

小島嶺平／こじま・りょうへい
(株)オルター・トレード・ジャパン 商品部

こんなことが
あつたんです!
スタッフが語る出張撮影

フィリピンのミンダナオ島コタバト州を訪問した時のこと。「日本人の靈が出るお店があるから行ってみよう。日本人なら何かわかるかも」とフィリピン人のスタッフに言われて、「JAPAN SURPLUS」(直訳すると「日本の余剰」)というリユース店に行った。何故、日本人の靈がいるのかというと、「JAPAN SURPLUS」の仕入れは、引越しや空き家整理、あるいは亡くなつた方の遺品など、行き場をなくした品々をまるごとコンテナで日本からフィリピンへ輸入するため、ときおり靈体も一緒にやってくるのだという。

さっそく店内を散策すると、雑多なガラクタの中に日本人形や作りのよい桐箪笥があり目を引いた。その中に憑依媒体だと思われる物品が散見された。フィギュアの横に位牌が置かれていたり、遺影写真が絵画に混ざって床に置いてあったりする。遺影が雑に床に置かれているのは不気味だった。現地のお客さんは、ただの記念写真だと思っているようだ。遺影に足をかけながら、奥の日本絵画を物色していた。「JAPAN SURPLUS」のスタッフに遺影の存在を伝えると、「不自然に箪笥が開いたり閉まつたりするから、彼らだったのかもしれない」とのこと。彼らもミンダナオ島のリユース店を彷徨うことになるとは思っていなかつたから、静かに成仏を願つた。

ちなみに、フィリピンには「JAPAN SURPLUS」の他に「AMERICA SURPLUS」や「KOREA SURPLUS」などがある。靈の目撃情報は定かではないが、「AMERICA SURPLUS」ではラブレターが売られていたこともあるようだ。靈も愛の残渣もコンテナで丸々運ぶのが、SURPLUS流なのだろう。



グアテマラ産地・ウエウエテナンゴの風景。



コーヒー豆の収穫(グアテマラ)。

因に、EUで新たに適用が予定されている「**EU森林破壊防止規則(EUDR)**」の発効があります。コーヒーのほか、パーム油、牛肉、大豆、カカオ、木材、ゴム、それらの派生製品を洲域外から輸入、また洲内から輸出させ

出業者が、EUDR規制の施行前に在庫を確保するために買い付けを急いで、コーヒー取引価格の一層の高騰を招いたといわれています。

EUはこれまで違法伐採を規制するEU木材規制(EUTR)を実施してきましたが、それだけでは不十分との認識から、合法・違法問わず森林破壊そのものを対象にした規則の制定に踏み切ったようです。一方で、生産地側では、森林を破壊していないことの証明書をどの機関がどのように証明するかの確認など対応に追われている状況です。確認や認証にかかるコストは、生産国にそうした法令が整備されているかの確認など対応に追われている状況です。確認や認証にかかるコストは、当然生産地側で発生するため、それは輸出価格へ転嫁されることになります。

コーヒーの圃場までトレースできる情報をしっかりとまとめている組織がある国とそうでない国では、新たなシステムの構築への対応が違つてきます。もしくは、EU向けの輸出をあきらめるか、といった選択になるのかもしれません。現時点では、日本向けに輸出されるコーヒーについては、特に森林破壊の有無を確認する法令はありません。ATTJのコーヒー産地は、小規模生産者が多いため、森林を切り拓いての開拓事例は少ないと思われます(現時点で生産者への聞き取り、確認はしません)。ATTJのコーヒー産地は、生産地の有無を確認する法令はありません。ATTJのコーヒー産地は、小規模生産者が多いため、森林を切り拓いての開拓事例は少ないと思われます(現時点で生産者への聞き取り、確認はしません)。

ATTJのコーヒー生産地では

ATTJのコーヒー産地でも天候不順

に対する対策をできることから実施していることがあります。ATTJが取り扱うペルー、メキシコ、グアテ

マラ、タンザニア、ルワンダの産地との取引においては、国際フエアトレード基準に基づき、コーヒーの品代に加え、フェアトレード・プレミアム(奨励金)を支払っています。このプレミアムの使用用途は協同組合や出荷団体に委ねられており、これまでには圃場の整備、コンポストの材料費、若手育成の費用などに役立ててきました。今後は、気候変動に強く、生産性の高い苗木の普及や確保、コーヒーの木を強い日日照から守る日陰の役割を果たすシェードツリーを植えることなどにも活用して

いきたいとのこと。成果がすぐに出るものと、長期的に考えなくてはならないものがありますが、できることから取り組んでいくとのことです。

原稿を執筆している2025年6月19日現在、昨年に比べてアラビカ種の主要産地ブラジルの雨量と収量予測が比較的安定しているため、コーヒー相場は一時期の高止まりから、実際に24%程度下落しています。需要と供給のバランス、先物取引という性質上、日々価格が変わり不安定ななか、フェアトレードによる一定の価格保証が、少しでも生産者の役に立てるべと考えていました。

(注)国際コーヒー機関統計(2024年7月時点)

撮っておきアジア take a shot of Asia.

撮影場所

ベトナム・ホーチミン

Ho Chi Minh City, Viet Nam

[撮影者]

吉澤真満子／よしさわ・まみこ

(株)オルター・トレード・ジャパン広報室



01 | 02

03

04 | 05



01統一会堂にて。戦車が正門に突入しサイゴンが陥落、ベトナム戦争終結を記念する歴史的場所です。元日には、赤やピンクなどカラフルなAoザイに身を包んだたくさんの若い女性たちが、インスタ映えする写真を撮影していました。

02メコン川支流の細い川を小さなボートで楽しめます。観光業が水上生活者の人たちの生活の支えとなっているようでした。

03街中には、今どきのカフェもたくさんある一方、路上脇にプラスチック製の椅子を置いてお茶を楽しむ人たち。

042024のクリスマスシーズンでライトアップがきれいなサイゴン大教会。青いLEDライトは「エコ・クリスマス」のメッセージとのこと。教会は、現在修復作業中で昼間は仮囲いに覆われていますが、夜はキレイな姿に変身しました。

05今年はベトナム戦争終結から50年。ベトナム戦争証跡博物館には、戦争当時世界各国であった反戦運動が紹介されているコーナーがあります。日本のベ兵連の紹介も大きくされています。博物館に訪れている人がほとんど西洋人だったのが印象的でした。

ハリーナ HALINA

2025年8月号 vol.02-no.55 2025年8月1日発行 領価 300円(税込)

[編集・発行]

特定非営利活動法人APLA (APLA/あぶら: Alternative People's Linkage in Asia)

〒169-0072 東京都新宿区大久保2-4-15 サンライズ新宿3F
(tel) 03-5273-8160 (fax) 03-5273-8667 (e-mail) info@apla.jp

(URL) <https://www.apla.jp> APLA 検索

月々500円からサポーターになって
APLAとつながる!

APLAの活動を応援してください。

APLAでは、会員(年会費5,000円)の他、サポーター制度を導入し、「マンスリー サポーター」と「APLAサポーター」を募集しています。詳しくはwebsiteをご覧ください。リーフレットが必要な方には郵送いたします。

問い合わせ・お申し込み

APLA事務局にご連絡いただくか、下記のwebsiteからお申し込みください。
QRコードからもアクセスできます。

<https://apla.secure.force.com/>

